

日本釋名所引仲哀帝事、謬妄特甚矣。不惟舉之口、又筆之書悲夫。古傳所謂筑紫國形似木莞、猶言日本國形似蜻蛉、蓋太古一種比興之稱、亦我國優艷之俗也。此比損軒傷國體之訓、自不失爲典雅、恐不可以妄謬斥之。

〔古事記上〕於是伊邪那岐命○中伊邪那美命○中御合○中次生筑紫島、此島亦身一而有面四、每面有名、故筑紫國謂白日別、豐國謂豐日別、肥國謂建日向日、豊久士比泥別、泥以音熊曾國謂建日別、會音以

〔古事記傳五〕筑紫島、萬葉廿八丁に都久之乃之麻とあり、これも伊余の如く、もと一國の名より出て、四國筑紫、肥、熊曾、豐國の總名にはなれるなり、此島後に西海道北山抄云と云、九國となる俗に九有面四とは、筑紫國と豊國と肥國と熊曾國と四なり。○下

〔拾遺和歌集六〕筑紫へ下りける道にて

舟路には草のまくらもむすばねばおきながらこそ夢も見えけれ

〔伊呂波字類抄知國郡〕鎮西筑紫

〔保元物語一〕新院御所各門々堅事附軍評定事

抑爲朝略○中父不孝シテ十三ノ歳ヨリ鎮西ノ方ヘ追下スニ、豊後國ニ居住シ○中君ヨリモ給ラヌ九國ノ總追補使ト號シテ、筑紫ヲ隨ヘントシケレバ○下

〔平家物語六〕飛きやくたうらいの事

明る十二日、鎮西よりひきやくたうらい、うさの大宮司公道が申けるは、鎮西の者共、○中一向平家をそむいて、源氏に同心の由申たりければ、平家の人々、東國北國のそむくだに有に、西國さへこはいかにとて、手を打てあざみあはれけり。○下

〔太平記十六〕西國蜂起官軍進發事